

The region agriculture leader of Wakayama prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2024
3
March

地域農業をリードする熱き農業者たち

第22号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

C【目次】CONTENTS

<巻頭言>

- 農業の情勢をみて ～農業は何のため？誰のため？～
(和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 井辺耕平) …………… 1
- 高校生に気づかされた「果樹試験場にできること」
(和歌山県果樹試験場 場長 鯨 幸和) …………… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 農業士定年を間近に控え (和歌山市 指導農業士 河島康典) …………… 3
- 「新たな栽培法へのチャレンジ」 (岩出市 地域農業士 吉村 学) …………… 5
- これまでの農業経営を振り返って (かつらぎ町 指導農業士 西垣俊秀) …………… 7
- 高品質なみかん作りと後継者の確保を (有田川町 地域農業士 川口記生) …………… 9
- 担い手不足・遊休農地解消への挑戦 ～農業分業化生産の確立を目指す～
(日高町 青年農業士 白井雄太) …………… 11
- 機械化を進め、効率的な農業を！ (田辺市 指導農業士 平岩義浩) …………… 13

<農業に懸ける想い>

農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 自分にとっての農業 (和歌山市 青年農業士 河嶋宏弥) …………… 15
- 「あら川の桃を次世代に繋ぐ」 (紀の川市 青年農業士 上畑雅敬) …………… 16
- 地域と人を繋ぐ (かつらぎ町 指導農業士 山本武美) …………… 17
- 効率的な農業経営を目指して (南広4Hクラブ 石川貴也) …………… 18
- 農業の継続を求めて (御坊市 青年農業士 小阪英誉) …………… 19
- 高品質な農産物を作るために (上富田町 青年農業士 前地孝俊) …………… 20

<県農林大学校学生です>

農学部1年生の自己紹介&近況報告 …………… 21

●園芸学科

栞 名 達 史 桑 原 良 輔 津 村 駿 藤 井 将 貴
森 友 誠

巻頭言

農業の情勢をみて ～農業は何のため？誰のため？～

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 井 辺 耕 平



令和5年度から連絡協議会の副会長を務めさせてもらっています、海南市下津町の井辺です。

私の家は、柑橘経営に取り組んでいます。かつては「農業を取り巻く情勢は厳しいものがあり……云々」などよく耳にしました。

最近の情勢をグローバルに見ると地球温暖化の進展により、異常気象が発生して爆弾低気圧、線状降水帯、ゲリラ豪雨等が起こっています。令和5年6月2日の台風2号は直撃こそ免れたものの、接近に伴いもたらされた豪雨は浸水や土砂災害をもたらしました。私の近辺でも園地の崩落等土砂災害が多く見られました。災害とはいええないもののミカンでは発芽や開花など生育の前進化、着色の遅れ、浮き皮現象など生育の変化も目立ってきています。このほかにも地震や津波などの自然災害、新型コロナウイルス感染症、資材高騰、諸々の風評被害など農業生産を制約する出来事もあります。

一方、ローカルに見ると、海南市下津町の多くでみかんをはじめとする柑橘類は傾斜段畑を中心に栽培され、作業性が良くありません。農家の高齢化と担い手の減少から、遊休農地や耕作放棄地が増えています。これに鳥獣被害の発生が拍車をかけ、さらに耕作が減少するといった負のスパイラルに陥っています。

これら諸々の条件が重なり営農を断念する農家もあります。依然として、農業にとって厳しい状況かと思えます。心が折れそうなどころもありますが、人々は英知を絞り困難を克服するものだと思いたいのです。

厳しい情勢の一方で、未来を照らす明るい兆しも感じられます。

一つ目は異常な気象条件下でも高品質で安定して生産できる品種が発表されています。浮皮現象の発生しにくいミカンは産地の維持発展に不可欠だと思います。

二つ目は省力・軽労化に関して技術が進展してきている点です。ドローンや、リモコン草刈り機、アシストスーツなどが発表され、課題はあるものの作業重労働からの解放が実現されつつあります。

三つ目は、施設栽培で環境制御技術により高品質安定だけでなく農業に頼らない生産の例も見られるようになってきました。生産物に安全安心がプラスされています。

最後に、SDGsの考え方が農業にも導入されてきました。サステナブルな社会実現のために、働がいのある仕事を推進し、経済成長を持続させる。持続可能エネルギーへの接続や持続可能な生産消費パターンの確保などが盛り込まれています。

自然の異変や技術の革新など変化のめまぐるしいところはありますが、「なぜ農業をするのか？」という理由は今も昔も変わらないと思います。私は農業を通じて社会を豊かにすることが与えられた使命と考えています。おいしい果実をタイムリーに供給し、見て、触って、食べてカラダと心を満たしていただきます。その上で健康増進へ寄与ができ、暮らしの彩りが豊かになれば幸いです。私にとって、農業が「世のため人のためになり、ひいては自分のためになる。」ものとするため頑張ります。

巻頭言

高校生に気づかされた 「果樹試験場にできること」

和歌山県果樹試験場

場長 鯨 幸和



地域のリーダーとして日々活躍されている農業士の皆様には、果樹試験場の試験研究に多大なご協力をいただいておりますこと、心よりお礼申し上げます。

さて、昨年10月1日、大阪府立大手前高校の修学旅行生（84名）が来訪されました。非常に印象に残るトピックでしたので、本欄をお借りして振り返らせて下さい。

研究内容を紹介する座学と場内見学を組み合わせ対峙したところ、農薬散布ドローンやシカを捕獲する新しいタイプの檻は都会育ちの学生にとって好奇心をそそられた様子でした。また、「ゆら早生」「YN26」に加え、今や希少な「宮本早生」「紀秋早生」の4品種で収穫体験（試食）させたところ、それまでは旅の疲れ？で少しばかり大人しかったのが一転して花が咲いたように賑やかになり、引率の先生方も含めて幸せな表情に変わったのが印象的でした。

そして、来訪の数週間後に届いた全員の感想文は、まさに我々を勇気づけ、気づきを与えてくれる「贈り物」でした。紙面スペースの都合で抜粋となるのが惜しいですがご紹介します。

まず、「品種によって収穫時期や味に違いがあり、品種に注目する面白さを学んだ。」というように、ミカンの品種に興味を沸かしたという感想が多く寄せられました。また、品種による食味の違いについては、「自分は甘いミカンを美味しいと感じたが、友人や先生は酸っぱいミカンを美味しいと言っていて興味深かった。」というように、新旧4品種に対する「推し」の評価が分かれ、「宮本早生」や「紀秋早生」も好評だったのが意外でした。

もぎたての美味しさにも驚いた様子で、「口に運ぶ手が止まらなかった。」「想像の何倍も甘くて一生忘れません。」「ミカンは苦手でしたが克服！」「美味しいミカンは美味しいということに果樹試験場で

気づけた。」「本当に幸せ。」といった嬉しいコメントが溢れていました。

「病害や鳥獣害を乗り越えたミカンだけが市場に届けられている」ということにも気づきがあったようで、「雨、台風、シカ、虫から農家さんが大切に守って育てたものと実感。」「ひとつのミカンにたくさんの方の労力。感謝したいしもっと知りたい。」「美味しく安全なミカンは農家さんや試験場などに支えられていることを学び、食への感謝が深まった。」といったコメントを目にした時、「我々のメッセージはしっかり届いていたんだ。」と実感できました。

今後の試験研究の励みになるコメントも多く寄せられました。「ドローンは小さい頃に見た未来そのもので、ただひたすらに格好良くて心が躍った。」「たくさんの方の研究、もっと知りたくなった。」「ミカン好きの弟にどうして和歌山のミカンが美味しいのか教えます。そうやって知名度や評価を上げていくことが大切。」「学んだことを家族や友人に共有し、和歌山の果樹の魅力を広めたい。」これらのコメントは、この日に向けて研究員で知恵を絞り、精一杯対応した事に対する成果であり、明日への活力となるご褒美としていただけたのだと真摯に受け止めています。

ミカンの消費拡大に向けては、若い世代にミカンの色々な側面をアピールし、ファンを育てていくことが不可欠です。ミカンに関わる全ての方々がそれぞれの立場で考え、発信・行動する。そうすれば産地の想いは必ず消費者に届くのだということを確認するとともに、「果樹試験場にもまだまだ出来ることはあるな。」ということに気づかされたイベントでした。

ミカンを取り巻く情勢は決して明るいとは言えませんが、果樹試験場はたゆまず知恵を絞り続けます。産地のみならずとともに生産振興に努めますので、今後ともよろしく申し上げます。

私の農業

農業士定年を間近に控え…

和歌山市 指導農業士

河島 康典



1. はじめに

私は、和歌山市内、紀ノ川右岸河口近くの湊中洲で、新ショウガ・コマツナ・ホウレンソウなどをビニールハウスと露地ほ場で栽培しています。行政的には子供の頃から市街化区域に指定された所です。多少の混住化は見られますが、よくぞこれだけの農地がまとまって残っているものだと我ながらに感心するような地域です。卒業後すぐに就農し、早いもので今年で43年目になりました。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
新ショウガ	90 a
ホウレンソウ	120 a
コマツナ	70 a
合計	280 a
○労働力	
家族	3人
パートタイム	15人

2. 農業経営の特徴と今後の経営方針

就農当時は単棟ハウスだったものが連棟ハウスへと順次施設を更新してきました。基幹となる品目は昔も今も新生姜ですが、青首ダイコン、コカブなどの重量野菜から都市近郊という立地条件をより活かした、ホウレンソウ・コマツナ・ミズナといった軟弱野菜に切り替えてきました。そうした中で家族だけで可能な作付体系から多くのパートさんのお世話が必要となる作付体系に変わりました。

最近では、少子高齢化のためでしょうか、長引く低成長社会のためでしょうか、消費者の消費する力がずいぶん弱くなったような気がします。これからは生産者側も、より高付加価値な生産を目指すのか、低コストな生産を目指すのか、社会の変化に柔軟に対応できる、「変化することへの勇気」が求められていると思います。



新ショウガの定植



新ショウガの収穫

3. おわりに

就農当時、地区担当の普及員さんは河西農協本所2階に部屋を持ち、農家の生産現場と普及員さんとの『ある種幸せな距離感の時代』だったかと思います。当時の普及員さんが独身の後継者達を月一回のペースで集めてくれて独自に講習会や産地見学などを計画し、そうした活動の延長で青年農業士にご推薦頂いたのが農業士会にお世話になるきっかけでした。

地域農業士、指導農業士へと移行していく折々に脱会することも頭をよぎることがありましたが、その時々々の普及員さんのおかげで今に至っています。

「農業士会に入っているメリットは??？」よくこのような近視眼的な質問を聞かれることがあります。家族経営で営農しているともすれば視野の狭い蛸壺に落ち込んでしまった自分に気がつくことがあります。東西にも南北にも広い和歌山県下、たとえ栽培品目が違っていても指標となる人との出会いが農業士会に入っているおかげでたくさんありました。入っているメリットは自分自身で見つけるものだということを知りました。

最後になりましたが、農業士会でお世話になるのも残りわずかな期間になりましたが、最後まで佳いお付き合いができますようによろしく願います。



ハウレンソウ（施設）



ハウレンソウ（露地）

新たな栽培法へのチャレンジ

岩出市 地域農業士

吉村 学



1. はじめに

私は農業を始めてから19年になります。就農した頃の頃は親の手伝い程度のことしかできていませんでしたが、14年前の結婚を機に経営と家計を独立させるために新たな作物の導入を考えました。美味しいと言われる物が作りたくて、果樹も考えたのですが、子供でも皮を剥かず簡単に食べられるイチゴを選びました。最初は5a程度の連棟ハウスを建てて高設栽培に取り組み始めました。その3年後には8aのハウスを建て増しし、現在は計13aのハウスでイチゴ栽培を夫婦2人で営んでいます。

以前は60aの水田を両親に任せていましたが、高齢になってきたので父が隠居し母親と私たち夫婦と3人で協力し合って栽培しています。

2. 農業経営の特徴

私のイチゴ栽培の目標は大玉果生産です。そのため雇用はせず、2人で栽培できる面積に止めています。大玉果は果形が不揃いとなりやすく販売先は限られますが、子どもが大玉のイチゴを夢中で食べて、果汁で服を汚して親が困るような大玉化を作りたいと思っています。

そしてもう一つ、スマート農業を取り入れた栽培が特徴です。

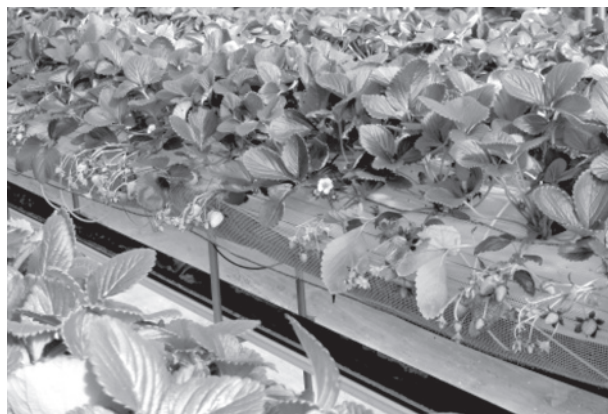
2018年の台風21号で8aのハウスが全壊、5aのハウスは半壊してしまいました。台風の翌年に全

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	60 a
イチゴ	20 a
キウイ	1 a
○労働力	
家族労働力	3人



イチゴ栽培ハウス



大玉果生産を目指して



環境制御装置のセンサー部

壊のハウスを再建し、その翌年には半壊のハウスも再建しました。この再建を機に環境制御の機器を導入し、換気のための開閉を自動化等したスマート農業に着手することとなりました。

このスマート農業を取り入れるきっかけとなったのは、2018年の秋に近畿大学生の卒業論文のお手伝いをする形で日射比例の灌水装置を設置して頂いたことです。その時お世話になった教授の星先生並びに学生さんとの会話や実際に設置・測定して頂いたデータなどから、これからの効率的な生産にスマート農業の必要性を強く感じました。

その翌年からハウス内外の気象データをモニタリング、数値化し、その数値とイチゴの生育を見比べていきました。そのまた翌年には気象データを利用した環境制御に対応した装置やCO₂発生装置を設置することにしました。また、県主催のスマート農業塾にも参加し、それらのデータをよりうまく使いこなせるようになりました。以前に比べて水や肥料のムダ、温度・湿度のムラをより少なくし、更に安定した生産につなげて行くべく取り組んでいます。

これらの技術やデータを活かし今後も大玉果の生産に励みます。

3. 今後の経営方針

今までどおりこだわりを持ってイチゴを栽培するのはもちろんのこと、スマート農業を活用し、より高次元で味も収量も安定した出荷ができる様にしていきたいです。そして大切なのが後継者対策。イチゴ栽培は生半可な気持ちでは成功しないのでやる気があれば外部の人材でも継承できるように法人化なども視野に入れていきたいです。

4. おわりに

今年は年始めから大きな災害があり、自分の経営の中でも災害時の対策が必要かなと考えるようになっていきます。また、昨今の燃油や肥料などの原材料や資材が高騰し農業を取り巻く環境はとても厳しい状況ではありますが、頑張って農業を楽しんでいきたいと思っています。

これまでの農業経営を振り返って

かつらぎ町 指導農業士
西垣 俊秀



1. はじめに

私は昭和 56 年に和歌山県農業大学校（現和歌山県農林大学校）を卒業し、その後の 2 年間は派米農業研修生として、カリフォルニアで柑橘栽培の研修をしてきました。帰国後は伊都農協（現 J A 紀北かわかみ）に就職し、営農指導員として 12 年間勤めました。

両親が元気なうちに農業経営を引き継ぐため、平成 7 年に退職して就農しました。

2. 農業経営の方針と特徴

就農当初は果樹を中心に、家族 4 人で約 3ha の経営を行っていました。しかし、ほ場は傾斜地が多く、労力が多くかかるため、省力化が大きな課題でした。そこで、防除作業の負担を軽減するため、スピードスプレーヤ（SS）の導入と、園内道の整備を行いました。整備後は、それまで 3 人で 2 日かかっていた消毒が、1 日あれば余裕で終わるようになりました。園内道の施工に関しては、県の「らくらく農業」の補助事業が大変役に立ちました。

当時は経営の中で刀根早生の占める比率が高く、中心となる品目でしたが、私の就農前から刀根早生の販売価格は暴落を続けており、その対策として刀根早生のハウス栽培を始めました。SS とハウスを導入する際には、国の後継者育成資金のお世話になりました。

しかし、就農から 10 年もしないうちに父親が亡くなったため、労力配分や経営形態の見直しを行い、

農業経営の概況	
○作付品目と面積	
かき	210 a
うち刀根早生	80 a
平核無	60 a
富有	70 a
くり	20 a
柑橘	30 a
○労働力	
家族	2 人

ハウス栽培を止めました。その後は、母の高齢化による将来の夫婦 2 人体制に対応するため、品種更新や改植に努めました。具体的には、刀根早生の労力分散を図るため、極早生種に高接更新。刀根早生の販売価格暴落の影響で、販売価格が益々低下している平核無樹（70 年から 80 年生）を若木へ改植（国の事業を活用）。同様に老木になった温州みかんの改植。うめからくりへの品目転換。高接ぎの刀根早生は富有柿へ改植するなど、夫婦 2 人の労力で農園の管理ができる体制に変えつつあります。

機械類では、肥料散布機、粉碎機、乗用草刈り機、ラジコン動力噴霧器等の作業機を揃え、更なる省力化に努めています。

販売においても、以前は J A 選果場にすべて出荷していましたが、現在は直売所と個人販売の占める比率が 50% を超えました。

中山間地域の営農で、一番の課題はイノシシ、シカの獣害です。園地全体をワイヤーメッシュで囲んでいますが、20 数年もたつと溶接部が朽ちてきます。以前のメッシュは大きさが 15cm 角だったので、ウリ坊（イノシシの幼獣）の侵入が絶えずありました。シカは 1m の高さであれば容易く飛び越えてきます。そこで、ワイヤーメッシュを 2 段に重ね、下部の 1 段目に 10cm 角、上部の 2 段目に 15cm 角のワイヤーメッシュを張り、イノシシとシカの侵入を防いでいます。

3. 今後の経営方針

昨年来からの燃料・肥料等の資材高騰対策として、肥料は有機 100% を目指して「つの有機」や鶏糞のブリケット肥料を用い、肥料散布機で施用しています。有機石灰も粒状のものを用い、いかにして手散布での施用を減らすか、これまで以上の省力化と経費節減が今後の課題です。

なお、全体の経営方針としては、長男の自発的な就農を期待して、70 歳まで現役維持です。

4. おわりに

農業士の使命の 1 つとして、後継者育成があります。昨年も就農支援センターからの依頼で研修生を受け入れ、新規就農につながりました。就農したと聞くと、とてもうれしいです。この年まで後進の育成に頑張れたのは、妻の支えがあったからと感謝しているところです。

私は本年で 65 歳を迎え、農業士を定年となります。就農してから 30 年、全力で頑張ってきて、そろそろ年齢的に無理がきかなくなってきました。一般社会での定年退職、再雇用の終了の年齢を迎え、今は夫婦 2 人で今後の農業経営の在り方を模索しています。

これからはあまり無理をせず、夫婦 2 人で息の長い農業経営に携わっていきたいと思います。



粉碎機



ラジコン動力噴霧器



肥料散布機



獣害対策用に高く張られたワイヤーメッシュ

高品質なみかん作りと 後継者の確保を

有田川町 地域農業士

川 口 記 生



1. はじめに

私は両親がかんきつ専作農家を営んでいたこともあり、昭和60年に県農業大学校（現農林大学校）を卒業後すぐに就農しました。就農当時から老木園が多いこともあって、毎年10aずつ改植を進めてきました。十分な収量を確保するため、全体を平均して樹齢15年程度をキープできるように計画的に改植を行っています。改植先の品種は、その時代のはやりの品種が多く、かつては「宮本早生」や「上野早生」、近年では「ゆら早生」や「田口早生」、さらには「きゅうき」などへの改植を行ってきました。また、就農直後から7月出荷のハウスみかんにも取り組んできましたが、老木化や重油価格の高騰により平成24年が最後となりました。現在は、不知火の簡易屋根掛け栽培として設備を有効活用しています。



みかん園

2. 農業経営の特徴

私の住む地区は有田川の南岸に位置し、多くの園地が中生層の土壌で、3分の1ぐらいが平坦地、残

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	250 a
うち極早生	50 a
早生	150 a
中生	40 a
晩生	10 a
不知火	15 a
○労働力	
家族	3人

りが傾斜園となっています。有田川の北岸の園地に比べると果皮の紅や玉のほりは少し劣る感じはしますが、収穫が早く、じょうのう膜がやわらかい、やさしいみかんができると感じています。

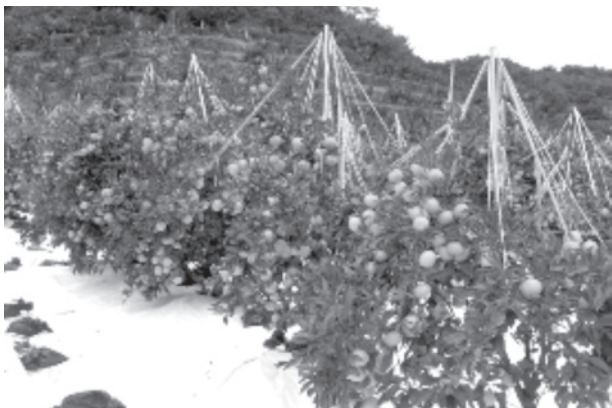
高品質なみかんを生産するためには、微量元素が



改植した「ゆら早生」

重要であると感じています。有機質肥料や天然の硫酸マグネシウム、カキ殻の石灰質などを投入し、15年ほど続けているとみかんの品質も向上してきたと実感するようになってきました。

また、高品質栽培の面では平成17年から30aほどの面積でマルドリ栽培にも取り組んでおり、品質の良いみかんが安定して生産できています。



温州みかんマルドリ園

販売面では、地区の集落共選であるマル有共選に出荷しており、名古屋や岡山の市場をはじめ全国各地の市場へ出荷されています。また、共選の副組合長を長く務めた後、3年前から組合長を務めさせていただいています。そのため、様々な販促活動などで有田みかんをPRさせてもらっています。



共選での出荷

3. 今後の経営方針

昨年6月の大雨の影響で、有田地域ではみかん園の崩落など大きな被害ができました。私の園でも崩落が起これりモノラックやスプリンクラーが被害を受けました。

昨年は手散布で薬散を行うなど何とか収穫まで行うことができたものの、早急に復旧を進めたいと思います。

また、一昨年、娘婿が親元就農してくれたため、思いもよらず後継者ができました。今後の経営方針については、規模拡大を進めていくのか、さらなる高品質化を目指すのか、次の世代を見据え検討を進めていきたいと考えています。また、現在の経営では11月から12月に出荷が集中しすぎているため、10月から1月までみかんの出荷期間を分散し、長い期間出荷・販売できるようにしたいと考えています。丹生系温州への改植や新品種の「あおさん」の導入も検討していく予定です。

共選では、世代交代が進み30代の組合員も増えてきましたが、後継者のいない方もあり、作り手のいない園地も増えてきています。他の組合員が管理を引き受けたりもしていますが、回りきれなくなってきており、これからどのように維持していくか共選でも働きかけていく必要があると実感しています。



大雨による園地の崩落

4. おわりに

これからも引き続き、生産者、出荷組織の立場からより良いみかん作りを目指していきたいと考えています。私には後継者ができましたが、後継者の確保や育成は他の地域も含め大きな課題だと思っています。地域外から来た就農者に対しても、上手に指導できる仕組みづくりや育てる環境、組織、地域が必要であると思います。また、初期投資も大きいため、地域で使わなくなった施設や機材をうまく活用できるような仕組み作りも必要であると考えています。

担い手不足・遊休農地解消への挑戦 ～農業分業化生産の確立を目指す～

日高町 青年農業士

白井雄太



1. はじめに

私は、高校卒業してすぐに就農しました。

地元の同世代の農家とともにグループで農業を行っており、水稻を中心に施設で青葱を栽培し、地元近隣市町の市場や産直施設を中心に販売しています。

平成30年からは農業委員として、令和5年度からは日高町農業士会の会長として、世代・地域内外を問わずに農業者の方との交流を盛んに行っています。相談を受けることも多いのですが、その中で、農業を始めたい、続けたいけれど人手が足りない、機械などの投資をしたいがお金がない。技術がわからないなどの相談を受けるようになりました。

新しく農業を始めたいと考える人や、続けたい人が多いのに、個人の力では限界がある。地域を活性化するためになんとかできないのかと色々考えるうちに、遊休農地を活用し、農業の分業化と、機械等の共同利用による生産方式を確立すれば地域の農業の担い手不足が解消されるのではと思い、令和5年の7月、町内の農家5人とともに農業者団体「アッサンブル日高」を結成しました。

2. 農業経営の特徴

最近、コンビニやスーパーなどで皆さんも購入される機会が多いかもしれませんが、サラダやカット野菜の彩りとして需要が高まっている「トレビス」

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	300 a
青葱	40 a
○労働力	
雇用（臨時）	10人

という野菜があります。

赤と白の色合いが鮮やかなイタリア原産の野菜で、ほのかな苦みとシャキシャキ食感が特徴です。イタリアンのレストランでも欠かせない食材ですが、残念ながらほぼ輸入に頼っており、市場や小売業者からも国産を求める声が高くなっているため、トレビスの産地化にこのシステムを活用できないかかとJAや行政に相談し、日高管内で初めての試験栽培を行いました。播種と育苗はJAの育苗施設で行い、去年の9月に60aのほ場に早生、中生、晩生の3品種を同時期に植えました。ほ場によって施肥量や植穴の間隔を変えるなどして生育状況を確認しました。

収穫後は、市場や関係機関とともに目揃え会を行いました。今回はまずまずの出来でしたが、品質のばらつきもあるため、技術確立に向けて今後も検討が必要です。



定植風景



トレビス目揃え会



収穫されたトレビス

3. 今後の経営方針

始まったばかりの取組ではありますが、徐々にトレビスの栽培面積の拡大を行う予定です。トレビスだけでなく他の野菜でもこの取組を広げていけるようメンバーで考えています。

また、今年中に「アッセンブル日高」の法人化を行う予定です。

4. おわりに

我々が目指す農業分業化体制は、耕うん、畝立て、定植の作業をアッセンブル日高のメンバーらオペレーター部門が担い、水管理や病害虫防除、収穫などのほ場管理は参画農家が行うシステムです。

農業へのハードルが下がり、新規就農者だけでなく、高齢者や主婦層など幅広い層に参画してもらうことで、地域の農業を活性化していきたい。その取組やスタイルが地域のモデルとなり、将来は日高管内の農業を盛り上げていけるよう頑張っていきたいと思います。

私の農業

機械化を進め、効率的な農業を！

田辺市 指導農業士

平 岩 義 浩



1. はじめに

私は、すももを主に、温州みかん、梅（苗木生産を含む）を栽培する農家に生まれ、東京農業大学を卒業後、地元の梅干し加工業者に就職しました。

当時、梅が「青いダイヤ」と言われるほど単価が高かったことから、結婚を機に就農しましたが、その頃の経営面積は80 aと小規模だったため、地域外まで農地を探しに行き、上富田町と日置川町（現白浜町）で約120 aを確保することができました。

2. 農業経営の方針と状況

就農後最初の取組として、「南高」の栽培面積を拡大するため、購入した上富田町の傾斜園地70 aに植栽されていた「古城」を伐採・抜根して改植、日置川町の水田50 aに新植しました。

将来の収穫量増加に対応するため、園地の傾斜緩和や防除用スプリンクラーを設置するほか、JAの特別栽培グループに加入して、青梅の高付加価値化に取り組みました。

これらにより、ハンマーナイフモアや肥料散布機を導入し、作業の機械化を実践するとともに、現在白干し梅と約半々の割合となっている青梅のうち、約3分の1を特別栽培として出荷しています。

梅苗木は父の頃から、多い時に

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	200 a
梅苗木	30 a
すもも	4 a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	10人

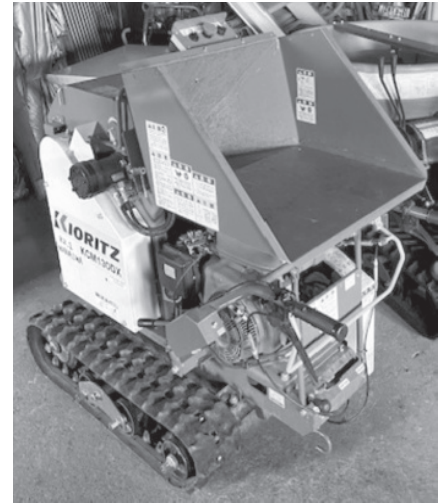
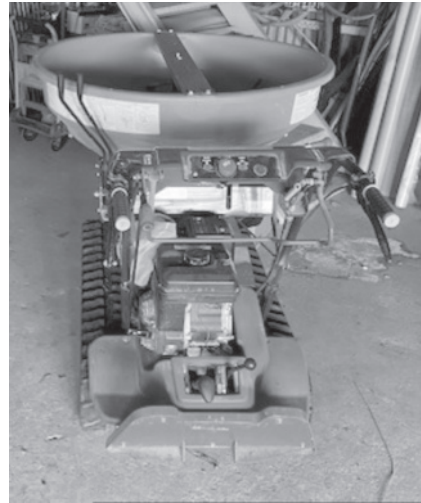
は40 a程度で取り組んでおり、現在「南高」のほか、「NK14」や「星秀」等の大梅5品種と「パープルクイーン」を含む小梅6品種を生産しています。苗木は3年かけて育成しますが、需要はその年の梅相場による変動が大きく、販売できる数量の1割程度しか売れない年があったものの、複合経営的なリスク分散の意味でも継続しています。



傾斜緩和し作業道確保



スプリンクラー設備



ハンマーナイフモア（左）、肥料散布機（中）、チッパー（右）

3. 今後の経営方針

私自身 63 歳となり、妻と 2 人の経営のため、梅の面積を維持しながら、就農当初に改植や新植した 30 年生以上の園地を計画的に改植していきます。

一部残っている急傾斜園や農薬の手散布園を更新するには、機械での作業用に整備し、スプリンクラーを設置するとともに、電動せん定ばさみ等の省力機器を積極的に導入することにより、さらなる効率化を進めます。

また、令和 2 年の不作、令和 3 年～昨年にかけての豊作傾向により、梅の販売状況が不安定となっていることから、特別栽培を含めた青梅出荷と白干し梅生産のバランスを調整し、安定した所得確保を図ります。

さらに、梅苗木生産を継続することで、年間の収入や労働時間の平準化といった経営面とともに、県果樹育苗組合の一員として、産地を支える役割を担っていければと考えています。



作業省力機器



梅苗木の生産

4. おわりに

早いもので、指導農業士としての定年が近づいてきました。

農業士の仲間に入れていただき、たくさんの人と知り合い、農業やそれ以外のことについていろいろ教わるとともに、近年では梅の苗木づくりの関係で、4Hクラブ員等ともつながりを持つことができました。

梅を含め農業を取り巻く情勢は厳しいですが、今植えた苗木が実を結び、次の世代につながり、産地がさらに発展していくことを願っています。

農業に懸ける想い

自分にとっての農業

和歌山市 青年農業士

河 鳶 宏 弥



1. はじめに

私は大学を卒業後、後継ぎとして就農しました。他の業種に一度ついてからでもと思っていたのですが、やはり両親の高齢化や、人手の問題もあり、思い切って飛び込んでみました。

2. 農業への想い・取り組み

我が家はショウガとコマツナなどの軟弱野菜を主力としており、特にショウガは地域の特産品として力を入れております。ショウガは非常に育成期間が長く、12月の末から5月末までじっくりと手を入れます。そして、7月末まで収穫するのですが、就農して最初の頃は非常に辛いものでした。どんどん暑くなるビニールハウス、夜明けと共に働き始め、終わるころには真っ暗という日々になぜ自分はこんな仕事についてしまったのだろうと後悔していました。

しかし、私たちの作ったショウガを食べた人たちの「おいしかった！また作ってなー！」という言葉に、自分たちのやっていることはとても大事なことなのだと気づきました。

それからは、辛いことは辛いですが、またあの「おいしかった！」を聞くために頑張ろうと思えるようになりました。また、父と意見がぶつかり合い喧嘩をすることも多いのですが、最近は自分も経験を積んだこともあり、少しずつではありますが意見を取り入れてもらえるようになりました。こうやって一歩ずつ進んでいくということが、自分の取り組んでいくことであり、皆がやっていることだと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
新ショウガ（施設）	85 a
新ショウガ（露地）	5 a
ホウレンソウ	42 a
コマツナ	67 a
シュンギク	10 a
○労働力	
家族	3人
パートタイム	5人



施設のコマツナ



出荷調整の様子

農業に懸ける想い

あら川の桃を次世代に繋ぐ

紀の川市 青年農業士

上 畑 雅 敬



1. はじめに

私は大学を卒業後、海南市の生活雑貨メーカーに入社し、営業部員として和歌山で3年、東京で5年間働いていました。和歌山を離れたことで、改めて地元への思いが大きくなり、桃農家をしていた祖母の引退や2018年の台風被害なども重なり、農家になることを決意しました。

和歌山に帰ってきて約2年間、(株)八旗農園で研修をした後、2022年度から独立就農し、今年で2年目のシーズンを終わりました。

2. 農業への想い・取り組み

実際に農業をはじめてみると、後継者不足、耕作放棄地、農家の高齢化による生産力の低下など、これからの農業にはたくさんの課題があることを改めて感じました。このような農業全体の課題や、産地としてあら川の桃ブランドを守っていくためにも、とにかく若い農家が増え、農業を続けていける環境づくりが必要だと感じています。

私は自らの農園の経営に加え、研修先でもあった八旗農園の仕事にも携わらせていただいています。現在、八旗農園には和歌山県農林大学校を卒業後、新卒で入社した若手従業員が3名おり、直営農場にて作業をしています。彼らの中には、社員としてキャリアアップを目指す者や将来的に独立就農を目指す者など目標は様々です。私はそんな彼らとともに

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	85 a
○労働力	
本人 (約 250 日)	
家族 (母・約 80 日)	

現場で作業をしたり、コミュニケーションをとる中で、新規就農への課題や農園として年間雇用していく課題など様々なことを気づかせてもらっています。

今後はそうして得た経験を活かし、課題解決に向けて個人農家としても、八旗農園の一員としても、地域の活性化のために努めていきたいと思っています。



一緒に働く若い仲間達

農業に懸ける想い

地域と人を繋ぐ

かつらぎ町 指導農業士

山本 武美



1. はじめに

私は結婚を機に退職し、子育てと親の手伝いをしながら農業に携わり、昭和62年に就農しました。その親も高齢となり、主人が13年前に定年となつてからは、夫婦で仲良く農業に取り組んでいます。

2. 農業への想い・取り組み

我が家の畑は元々急傾斜地が多く、労力が多くかかります。将来の労力不足を考え、畑を預かる際に作りやすい畑と入れ替えながら、軽労化と収入の確保に取り組んでいます。

さて、かきやうめ、柑橘などを作っていると、選果場に出荷できない物が結構です。そこで、農家の勿体無い精神から、平成23年に四郷串柿の里ふるさと工房キャロットを地元の4名で立ち上げ、加工販売を始めました。キャロットでは、カット柿、あんぼ柿、うめジャム、うめ味噌、柑橘のピールなど様々な加工品を開発し、道の駅くしがきの里などで販売しています。

今、私達が一番力を入れているのが、令和5年4月にプレオープンした四郷地域交流センターともがきの四郷食堂です。村おこしのために四郷地区内の女性17名でシフトを組んで運営しており、子供だけでなく老若男女の全ての方が楽しめる、地域の憩いの場となっています。

ここでは月2回、第1、第3日曜日の11:00～14:00に50

農業経営の概況

○作付品目と面積	
かき 中谷早生、紀北川上早生	30 a
刀根早生	200 a
平核無	20 a
四ツ溝	50 a
うめ	50 a
すもも	20 a
柑橘類	20 a
ぶどう	20 a
水稻	40 a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	4人

食限定で、地域で採れた季節の食材を用いた料理を1食500円で提供しています。同時に行っているパンなどの加工販売も人気で、地域内外のリピータも増えています。

これらの取り組みで若い人が地域と繋がり、将来の担い手となって地域を引き継いでもらえるように頑張っています。



四郷食堂の運営（厨房）



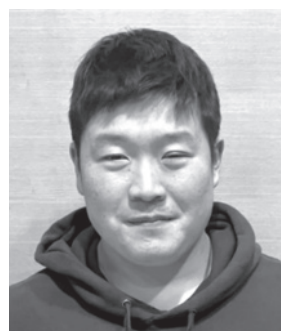
旬菜定食

農業に懸ける想い

効率的な農業経営を目指して

南広4Hクラブ

石川 貴也



1. はじめに

私は、京都学園大学で自然環境に関する学科を卒業後、平成29年に親元就農しました。

長男であることから、小さい頃より祖父に家の農業を継いでほしいと言われていました。農業を継ごうと決心したきっかけは、中学3年生の時でした。いままで農業を継いでほしいと言わなかった父親が、継いでくれるなら規模拡大を行うと言われた時でした。農家の長男に生まれ代々続いている農業を絶やしてはダメだと感じたのを覚えています。

2. 農業への想い・取り組み

私が農業を始めた時には、すでに父親がほとんどの園地で園内道やスプリンクラーを整備しており、効率よく作業ができる状態であったため大変助かりました。また、作業のしやすさを第一に考えた（フォークリフトの取り回しのしやすさ、天井高にこだわった）、倉庫も新築してくれていました。私が就農してからは、倉庫へ新たに天井クレーンを設置しました。それにより、更に効率良く作業ができるようになりました。

栽培面では、早生と中生温州でマルチを被覆し、品質向上を図っています。マルチ栽培は樹が弱るので収穫後に液肥を散布するなどその後のケアを十分に行っています。日陰で品質の良くない園地では、収穫を遅らせた完熟栽培を行い、品質向上を図っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
極早生温州	55 a
早生温州	110 a
普通温州	119 a
中晩柑	29 a
水稻	20 a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	2人

出荷先については、JAに出荷を行っています。良いものを作れば単価に反映されるため、やりがいを感じております。また、品質を数値化して返してくれるので今後の栽培管理方法を改善するデータとして大変役立っています。

今後は、雇用をなるべく減らし、家族労働でほとんどの作業が行えるようにしたいです。そのために、まず品種構成を見直し、労働配分を考えていきたいです。



マルチ栽培

農業に懸ける想い

農業の継続を求めて

御坊市 青年農業士

小 阪 英 誉



1. はじめに

私は高校卒業後、山梨県の種苗会社に勤務しました。会社では、イチゴを担当し、試験栽培に携わったことが、イチゴを栽培するきっかけです。就農と同時に4Hクラブに入り、他地域のイチゴ栽培を目指す同志とも巡り会いました。また、先輩方に教えて頂き、時に競い合い、栽培面積も徐々に増え、現在70aになりました。

2. 農業への想い・取り組み

当農園は、県産成品種「まりひめ」を主力に経営しています。多くの人に知ってもらうため、各方面に出荷しています。農家としての個人のブランドによる価格より、売り手・買い手に満足していただける品質と価格を常に考え、日々努力しています。その点を評価いただき、おかげさまでお取引様とは長いおつきあいをさせていただいております。

私どものイチゴに係わる人たちとWin-winの関係性を築くことこそが私の考えの軸です。それこそが農業が未永く継続できる方法であると信じています。時に安すぎて不安になりますが「農家として食べてもらってなんぼ!!おいしいと喜

農業経営の概況

○作付品目と面積	
イチゴ	70 a
スイカ	7 a
ケイトウ	10 a
○労働力	
家族	4人
パート	3人

んでもらえたら幸せ!リピートしてもらったら誇り!」と励まし合い営農しております。

天候・気候・災害・経済情勢・栽培・人手不足等々、問題・課題はなくなりませんが知恵を絞り、イチゴ部会の方々、他県のイチゴ生産者の方々とも意見交換し、また、他業種の方々にも知恵をお借りし、日々精進しております。私にとっての短期目標としては、「和歌山のまりひめ おいしい」と知名度が全国に広がることです。

「どお、今日も明日も明後日もがんばろかい!」



栽培状況



パック詰め

農業に懸ける想い

高品質な農産物を作るために

上富田町 青年農業士

前地 孝俊



1. はじめに

私は高校卒業後、地元の企業に就職しましたが、いずれは家の農業を継ぐつもりだったので、早いほうがいいと思うようになり、30歳を機に就農して今年で10年目になります。

2. 農業経営への想い・取り組み

我が家は、温州みかんと梅を栽培しており、就農する以前から休日には収穫を手伝っていました。就農してからも父に言われるがままの作業をしていましたが、町の農業後継者クラブやJAの青年部、みかん部会、梅部会に加入し、栽培技術や品質向上につながる取組などについて話をする事により、父とも意見交換するようになりました。

令和元年に経営移譲したことから、販売単価をアップし収入額を増やすため、果実品質向上の取組を進めました。特に温州みかんは、味が重視されるようになり、全量JA出荷のため光センサー選果機で評価されることから、「日南の姫」、「日南1号」は高畝+マルチ栽培と点滴かん水設備による適正な土壌水分管理を行うとともに、「ゆら早生」を導入しました。さらに、家の周辺までイノシシの被害があり、全園ワイヤーメッシュを張り巡らせています。

また、梅は「古城」、「南高」を父と2人ですべて青採りしており、大玉生産と作業省力化のため、摘心+カットバック栽培に取り組む予定です。

さらなる品質向上による高単価での販売を目指すには、施肥や剪定方法などの知識や技術を磨くことが必要なため、地域の先輩や仲間、JAや町、県の方々とのつながりをより深めていきたいと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	125 a
うち極早生 90 a	
梅	30 a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	7人
(温州みかん収穫時)	



高畝+マルチ栽培園



獣害防止柵

県農林大学校生です。

～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

農学部 園芸学科



栗名達史

私は大阪府出身で、大阪の園芸高校を卒業しました。家は自営業の居酒屋で、農業にはあまり関係ないような状況でしたが、元々緑や自然が好きで、農家になろうという目標ができました。高校で培った自然に関する知識を生かしつつ、新しく得られる知識も吸収してスキルアップを目指したいと思っています。

学校では様々な資格を取得する事が出来るため、そういった資格も活かせるような仕事をしていきたいと思っています。

将来の夢は農家で、イチゴの栽培をしてみたいと思っています。その他に1～2品種ほどトライしたいです。そのためにはまず自分がそこまでいけるように努力する必要があります。今は目の前にあるものを少しずつでもクリアしていこうと思っています。



私は有田市出身で、高校は有田中央高校に通っていました。農林大学校に入学した理由は、高校で学んだ知識や技術をより深く学びたいと思ったからです。

将来は、農業関連企業に就職したいと思っています。学校で頑張りたいことは、いろいろな資格を取得したいと思っています。



桑原良輔



津村 駿

私はすさみ町出身で、高校は和歌山県立熊野高等学校に通っていました。私がこの農林大学校に入学した理由は、農業関係の仕事に就職するためです。最初は寮生活へ不安を感じましたが、1日で慣れました。

将来の夢はまだ明確には決まっておりませんが、どんな道に進んでも大丈夫なように学校で出来る限り多くの資格を得ようと考えています。まだまだ時間はあるので頑張ります。

私は岩出市出身で、高校は紀北農芸高校に通っていました。家は稲と野菜を栽培している兼業農家です。

農林大学校に入学した理由は、高校から近かったこと、高校で花を専攻していたことから、花の技術と知識をより深く学びたいと思ったからです。

現在のところ明確な将来の目標はまだありませんが、高校で培った技術と知識を更に深め、新たに得た知識や経験を積み、将来のために役に立つ明確なスキルを身に付け目標を見つけたいと思います。

また、危険物や毒劇物の資格を取得できるよう勉強も頑張りたいと思っています。



藤井将貴

.....



森友誠

私は和歌山市出身の森友誠です。

高校は紀北農芸高校に進学し、主に野菜に関することを学びました。私は最初から農業に興味があったわけではありませんでした。何気ない理由で高校を選び、農業の知識が全く無いまま入学しました。最初は疲れる、しんどい等小言をこぼしたりしていましたが、少しずつ農業の楽しさを知り、どんどんハマっていきました。

将来は自分が身に付けた能力を使えるような仕事をしたいです。そのために大学では色んな資格を取得し、知識を身に付け活かしていきたいです。



試験研究レポート

REPORT

‘YN26’における日焼け果対策

和歌山県果樹試験場 栽培部 主任研究員 中谷 章

1. はじめに

‘YN26’は和歌山県果樹試験場が‘ゆら早生’から育成した極早生ウンシュウミカンであり、県内での導入が進んでいますが、夏期の高温・強日射による日焼け果の発生が問題となっています。そこで、現地の‘YN26’栽培園の日焼け果発生状況を調査するとともに、その対策技術について検討しました。

2. 現地栽培園における日焼け果の発生状況

2021年に西牟婁振興局管内および日高振興局管内の各5園地（計10園地）の‘YN26’栽培園において日焼け果の発生状況を調査しました。7月下旬から9月上旬にかけて概ね1週間に1回程度、樹上での新規発生数を目視で調査しました。表1に西牟婁地域での調査結果を示しますが、各調査園地とも日焼け果の発生が認められ、多い園地では3樹で200果を超える果実が日焼け果となっていました。各園地とも梅雨明け（2021年：

表1 西牟婁地域の‘YN26’栽培園地における日焼け果の発生状況（2021）

	7月21日	7月28日	8月6日	8月11日	8月25日	8月31日	9月7日	合計
I園	0	10	15	23	0	27	42	117
M園	0	22	47	23	2	45	50	189
S園	0	10	35	23	1	101	40	210
A園	13	68	40	19	4	40	19	203
K園	0	1	3	13	0	3	4	24

※日焼け果数は各調査日における新規発生数（3樹合計）

7月17日頃）後に晴天が続いた7月下旬から8月中旬頃まで日焼け果が多く発生し、曇天・降雨日が多かった8月中旬は発生数が減少し、その後8月下旬から9月上旬にかけての晴天時に再び増加しました。K園のみ他園地よりかなり発生数が少ない結果でしたが、この園地のみ後述する炭酸カルシウム剤が散布されていました。

3. 遮光処理および炭酸カルシウム剤散布が日焼け果発生に及ぼす影響

次に、日焼け果対策について検討しました。日高郡日高川町内の現地栽培園において遮光区（2021年7月18日～9月1日の晴

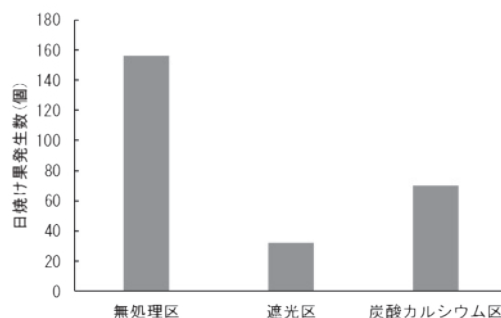


図1 遮光処理および炭酸カルシウム剤散布が日焼け果発生に及ぼす影響
※日焼け果発生数は3樹合計

天日の日中のみ樹冠上に遮光ネットを展開) および炭酸カルシウム区 (薬剤名: ホワイトコート (以下同じ) を2021年7月5日に25倍で樹冠全面散布) を設定したところ、いずれの処理区も無処理区より日焼け果が減少し、特に遮光区で最も日焼け果が少なくなりました (図1)。なお糖度は遮光処理ではやや低く推移し、炭酸カルシウム区ではやや高く推移しました (図2)。これらの結果から炭酸カルシウム剤散布が対策として有効であると考えられました。

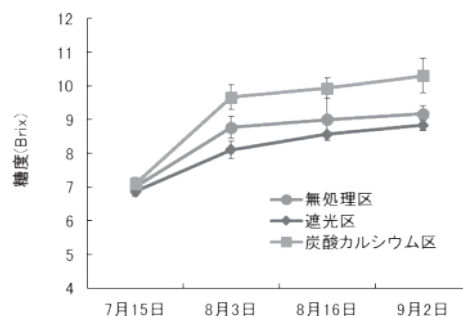


図2 遮光処理および炭酸カルシウム剤散布が糖度の推移に及ぼす影響

4. 炭酸カルシウム剤の散布回数が日焼け果発生に及ぼす影響

上記と同一の園地において、炭酸カルシウム剤の散布回数について検討しました。2022年7月10日に25倍で1回のみ散布した区 (炭酸カルシウム1回区) と8月9日に追加で散布した区 (炭酸カルシウム2回区) を比較したところ、炭酸カルシウム2回区で日焼け果の発生数が少なくなりました (図3)。また、糖度については前年の試験ほどの違いはなかったものの、散布回数に関わらず無処理区よりやや高く推移しました (図4)。これらの結果から、炭酸カルシウム剤2回散布がより効果的であると考えられました。

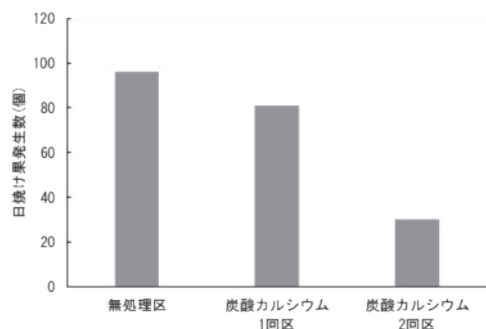


図3 炭酸カルシウム剤の散布回数が日焼け果発生に及ぼす影響
※日焼け果発生数は3樹合計

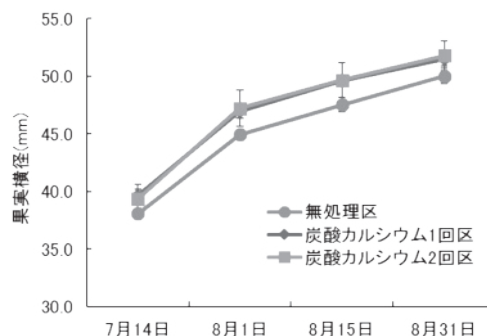


図4 炭酸カルシウム剤の散布回数が糖度の推移に及ぼす影響

5. おわりに

これらの試験結果から、果実品質も考慮した‘YN26’の日焼け果対策には炭酸カルシウム剤25倍の2回散布が最も有効であることが明らかとなりました。炭酸カルシウム剤に日焼け果の治療効果はないため、散布時期としては、梅雨明け後に晴天が続いて日焼け果が発生し始める前に1回目を散布し、概ねその1か月後を目安に2回目の散布を行うのがよいと考えられます。ただし、炭酸カルシウム剤は果皮の表面に付着することで果皮の表面温度の上昇を抑えることで日焼け果を軽減する薬剤であるため、いわゆるゲリラ豪雨のような短時間の強雨により薬剤が流されてしまった場合は、追加散布をする方がよいと思われます。

さらに注意点として、‘YN26’の場合、特に収穫時期が早い場合、収穫時に果実表面に薬剤が付着しています (写真1)。そのため、使用にあたっては必ず事前に出荷先と調整してください。

なお、本試験の実施にあたり調査園地の園主様をはじめ多くの皆様のご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。



写真1 収穫時の炭酸カルシウム剤の付着状況

試験研究レポート

REPORT

高糖度ミニトマト栽培での複合環境制御による 収量、果実糖度への影響

農業試験場暖地園芸センター 園芸部 主査研究員 田中寿弥

1. はじめに

本県では、日高地域を中心に高糖度ミニトマト栽培が盛んで、ブランド化による高収益品目となっています。近年、トマトなどの施設園芸作物では、環境制御技術が注目されており、収量向上に大きく貢献しています。ここでは、暖地園芸センターで実施した高糖度ミニトマト栽培での複合環境制御による収量、糖度への影響について紹介します。

2. 試験方法

積極的な温度管理や CO₂ 施用、細霧噴霧を行う「制御区」と加温機と換気窓を一定温度で管理する「対照区」を設けました。「制御区」では、加温機と換気窓の設定温度を段階的に高め日の出前～午前中の気温を緩やかに上昇させるための温度管理、タイマー制御による日中の CO₂ 施用、春以降の細霧噴霧による飽差（湿度）管理を行いました（表1）。

表1 各試験区の環境制御項目と設定値

試験区	加温	換気	CO ₂ 施用	細霧
制御区	4:00～; 13℃	4:00～; 20℃	有	有
	5:30～; 15℃	8:00～; 22℃	タイマー施用	飽差7g/m ³ 以上で、 20秒/1～2分噴霧
	7:00～; 17℃	11:00～; 25℃	CO ₂ : 3～6kg/10a/h	時間: 7:00～17:00
	16:30～; 11℃	16:30～; 15℃	時間: 7:00～16:30	
対照区	11℃一定	25℃一定	無	無
設定期間	11/25～4/30	11/25～5/31	11/5～5/31	3/11～6/30

品種には「キャロル7」を供試し、2021年8月26日に実生苗を定植しました。栽培、施肥は産地の慣行法に準じて行い、2022年6月30日まで調査を行いました。

3. 結果

(1) ハウス内環境の推移

日の出前～午前中にかけて加温機と換気窓を段階的に高める設定とすることで、制御区では、日の出前後の気温が緩やかに上

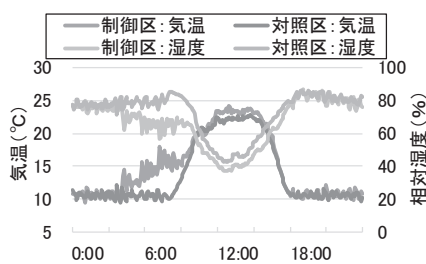


図1 気温、相対湿度の時間毎の推移 (2/1～10)

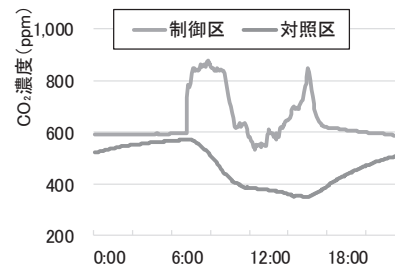


図2 CO₂濃度の時間毎の推移 (2/1～10)

昇するとともに、相対湿度が緩やかに低下し、ストレスの少ない温湿度管理となりました（図1）。また、12月～2月の日平均気温が対照区よりも約1.0～1.5℃高く推移しました（図3）。

11～5月にかけてCO₂施用を行うことで、制御区では、日中のCO₂濃度は高く推移しました。特に気温が低く、換気の少ない12月～2月では、日中の平均CO₂濃度が対照区より200～400ppm高くなり、CO₂の施用効率が高いことを確認できました(図2、3)。

3月中旬以降に細霧を噴霧することで、制御区では日中の飽差が低く推移し、ハウス内の乾燥を防ぐことができました。しかし、本試験では、気温の低下は認められず、高価な細霧装置を導入するには、より効果的な活用方法の検討が必要と考えられました(図3)。

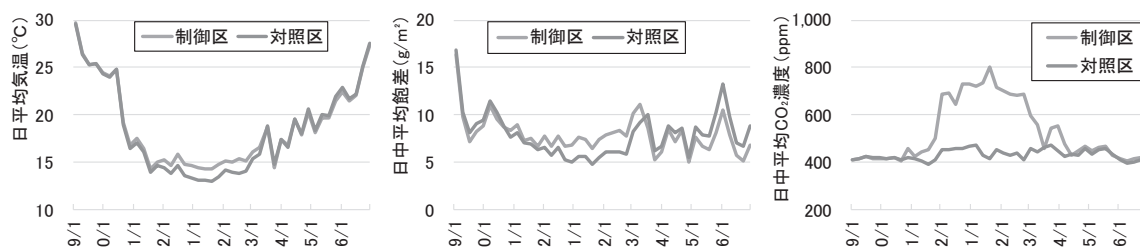


図3 日平均気温(左)、日中平均飽差(中央)、日中平均CO₂濃度の週平均値の推移

(2) 収量と果実糖度

制御区では、対照区に比べて、11月～6月の各月の収量が多く、総収量が23%増加しました(図4)。この要因として、日平均気温を高く管理したことで、収穫果房数が1.8果房増え、収穫果実数が13%増加したこと、また、CO₂施用により1果実重が8%大きくなったことが考えられました(表2)。

年間の平均果実糖度は、制御区、対照区ともに同等でした(表2)。月別糖度は、制御区で対照区に比べて11～12月に低く、1～3月に高く推移しました(図5)。

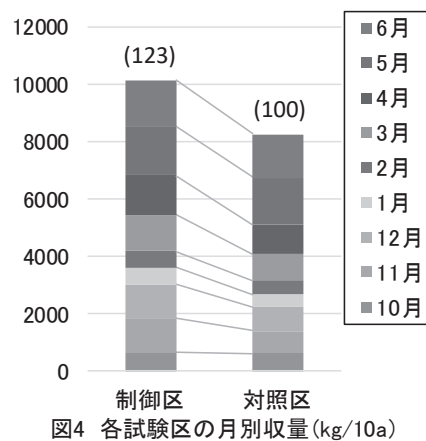


図4 各試験区の月別収量(kg/10a)

表2 各試験区の年間収穫実績(6月末まで)

試験区	総収量 (g/m ²)	総収穫 果実数 (果/m ²)	収穫 果房数 (果房)	1果重 (g/果)	果実 糖度 (Brix)
制御区	10,135	960	25.5	10.6	10.0
対照区	8,249	846	23.7	9.8	9.9
(比)	123%	113%	108%	108%	101%

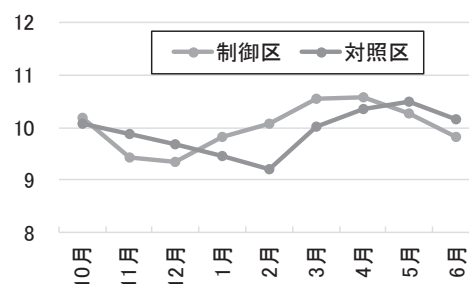


図5 各試験区の月毎の果実糖度(Brix)の推移

4. まとめ

今回の試験では、加温機と換気窓の設定温度を段階的に高め、日の出前～午前中の気温を緩やかに上昇させるための温度管理、タイマー制御による日中のCO₂施用、春以降の細霧噴霧による飽差(湿度)管理を複合的に制御することで、果実糖度を低下させることなく、収量が23%増加しました。

トマトの収量や果実糖度を高めるためには、光合成量を高めることと、光合成産物を収穫部位である果実へ転流させることが重要で、そのためにはハウス内環境や植物体の状態を把握した上で、理想的な環境条件(温度、湿度、CO₂濃度など)を実現することが大切です。当センターでは、ミニトマトの収量や品質向上に貢献する環境制御技術の開発に向け、今後も引き続き試験を実施していきます。

試験研究レポート

REPORT

ウメ ‘南高’ 果実の収穫後の保存条件が褐変障害果発生に及ぼす影響

果樹試験場うめ研究所 主査研究員 田嶋 皓

1. はじめに

近年、香港や東南アジアの各家庭では、梅酒づくり等の加工がブームとなり、和歌山県産‘南高’の青果がこれらの国に輸出されています。しかし、2018年に香港向けに船便で輸出された青果の多くが褐変するという問題が発生し（図1）、現在は高コストな航空便での輸出となっています。

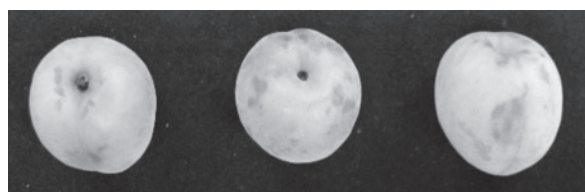


図1 褐変障害果の程度別区分

そこで、船便での輸出再開につなげるため、2019～21年に長期冷蔵保存で褐変障害が発生しにくい温度条件を調査しました。なお、すべての試験には、6月上旬に収穫した2Lおよび3Lの果実を使用しました。

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 予冷温度および保存温度が褐変障害果発生に及ぼす影響（試験1）

船便での輸送の場合、ウメは生産者から選果場に出荷され、約1日コンテナで予冷されたのち、箱詰めされ冷蔵状態で輸出されます。そこで、それぞれの適した温度を明らかにするために、予冷、保存温度ともに0および5℃の組み合わせで果実表面の褐変障害果発生率を程度別に調査しました。その結果、褐変障害果発生率は、予冷0℃で高くなりました（図2）。保存温度については、2021年では予冷5℃、保存5℃で褐変障害が発生したものの、2020年には予冷5℃、保存5℃がもっとも褐変障害果発生率が低くなりました。これらのことから、予冷、保存温度ともに0℃よりも5℃のほうが褐変障害が少なくなると考えられました。

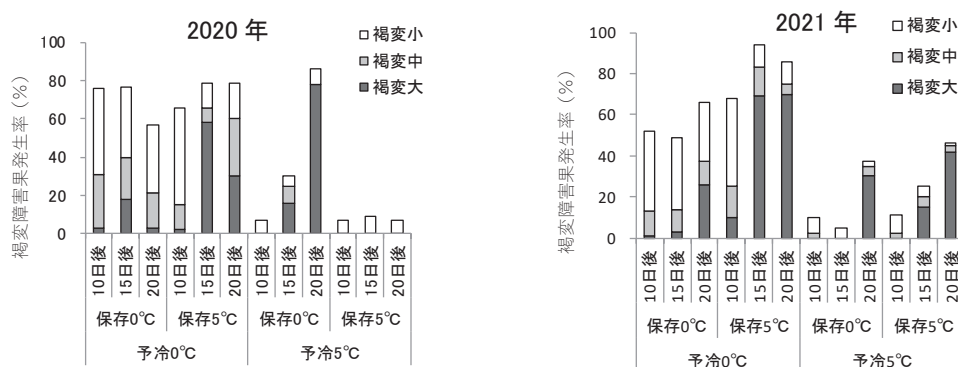


図2 予冷温度、保存温度および保存期間と障害果発生率(左 2020年、右 2021年)

(2) 保存温度および保存後の温度上昇が褐変障害果発生に及ぼす影響（試験2）

店頭での販売時でも褐変障害果が発生しにくい保存温度を明らかにするため、5℃で予冷したものを箱詰めし、0、5、8℃で保存し、その後25℃に移して24時間後の褐変障害果発生率を調査しました。その結果、褐

変障害果発生率はすべての温度で 25℃に移す前と比べて高まる傾向でありましたが（データ略）、保存温度 5℃では他の温度と比較して、20 日保存後も低い発生率となりました（図 3）。これらのことから、保存温度 5℃では、20 日保存後常温に移した時の褐変障害の発生がもっとも少なくなると考えられました。

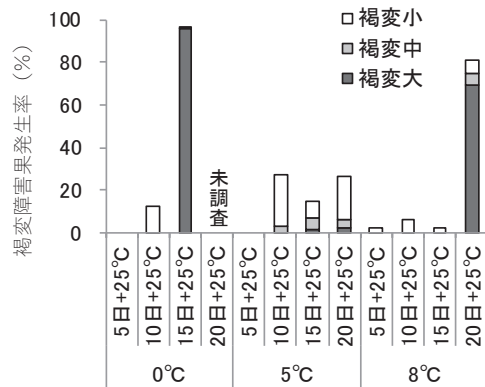


図3 保存温度および保存期間とその後 24 時間 25℃に移した場合の障害果発生率

(3) 予冷後の低温保存までの高温が褐変障害果発生に及ぼす影響（試験 3）

船便輸送前もしくは輸送中の冷蔵施設のトラブルを想定し、予冷後の高温が褐変障害果に及ぼす影響を明らかにするため、5℃で予冷後、箱詰めしたものを 20、25、30℃で最長 72 時間保存したのち、5℃に移し、7 日後の褐変障害果発生率を調査しました。その結果、2019、2020 年とも高温遭遇した時間が長いほど褐変障害果発生率が高い傾向となりました（図 4）。また、同じ高温遭遇時間では、20℃、25℃と比較して 30℃で褐変障害果発生率が高い傾向がみられました。これらのことから、予冷後はできるだけ温度を高めないことが重要と考えられました。

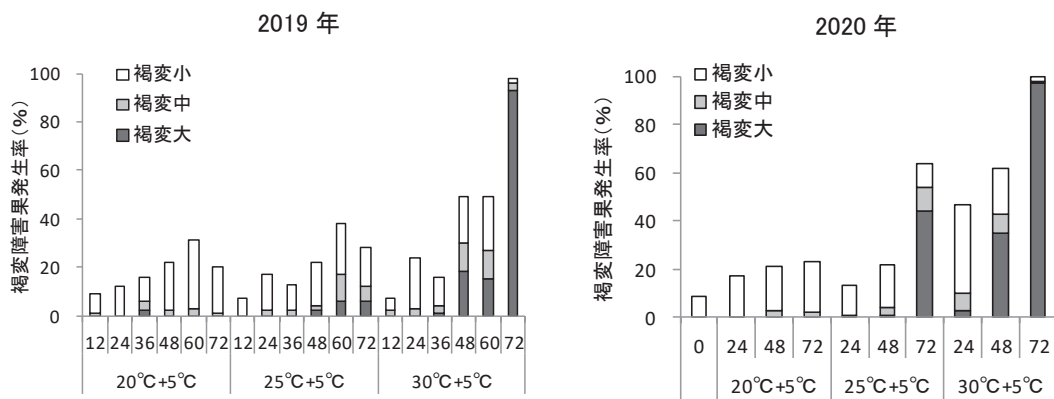


図4 予冷後の高温保存温度および保存時間の違いとその後 7 日間 5℃に保存した場合の褐変障害果発生率(左 2019 年、右 2020 年)

注)横軸の数字は保存時間を示す

3. まとめ

本試験によりウメの褐変障害が発生しにくい条件は、予冷温度、保存温度ともに 5℃が適した条件であることが示されました。また、低温保存の前後に高温に遭遇すると、褐変障害が増加したことから、輸送中は一貫した低温管理が重要であると考えられます。

今後、船便での輸出が再開されれば、低コストで大量のウメ果実が輸出できるようになり、生産者の所得向上につながることを期待されます。

農業士会支部活動レポート

REPORT

令和 5 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

1. 令和 5 年度和海地方農業士会総会を開催

令和 5 年度和海地方農業士会総会を 4 月 14 日に海南市農村婦人の家で開催し、今回も新型コロナウイルス対策のため役員と理事に限定し、18 名で行いました。松本会長の挨拶と海草振興局農林水産振興部の中谷部長の祝辞の後、令和 4 年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案は全て可決されました。令



総会

和 5 年度については 5 月 8 日以降新型コロナウイルス感染症が 5 類移行となることから、制限を設けない通常の活動にしていくこととしました。

総会後は「侵入警戒有害動植物と発見時の対応について」を農業環境・鳥獣害対策室 岩倉拓哉氏から「県農業士会令和 4 年度県外研修報告」を経営支援課 岡室秀作氏から講演がありました。新たな病害虫が迫り来る危機や、慣れや油断が耐性菌の発生につながった県外の事例に参加者が興味深く聞き入っていました。

2. 農業者交流カローリング大会を開催（和海地方農業士会）

コロナ禍の制限により多くの活動を休止していましたが 5 月に制限が解除されたことで 4 年ぶりにカローリング大会を開催することになりました。海南市総合体育館において 8 月 25 日に 37 名の農業士をはじめ農業者（生研グループ、青経）が集いました。大会は 3 人 1 組のチームを編成し、対戦形式で各チーム 3 ゲーム行い、合計得点で順位を決めました。優勝は紀美野町生研グループ・振興局の混成チーム、準優勝は紀美野町農業士 A チームでした。

成績もさることながら、ゲームの実施中や休憩の合間に参加者同士で日頃の営農、後継者、生産技術等々の会話がありました。情報交換の場では、何気ない会話中にキラリと光るものを感じた人もあったようです。スポーツで対話の中から導き出された知恵は明日の営農の糧となるかも知れません。知恵の交換によって農業の未来を開く化学反応が期待されます。



試合の様子

3. 「みかん出前授業」を開催（下津町農業士会）

下津町農業士会（会長：岡室孝明氏）は 将来を担う子どもたちに下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力を学んでもらうことを目的として、毎年、地元の下津第二中学校で出前授業を行っています。本年は10月13日、2年生37名を対象に開催しました。

授業では萩平普及指導員から「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定されていることなど全国に誇る産地であることを説明。農業士会の岡室会長と児玉副会長からは、農業の魅力、みかん栽培のやりがいを伝えました。

その後、生徒はグループに分かれ、①みかんをもっと食べてもらうには？②農業を職業にする人を増やすには？③下津みかんを有名にするには？をテーマにグループワークを行いました。「みかんを作った料理を開発する」「世界にみかんを発信する」などのアイデアが出されました。「みかん産地に住んでいても知らないことがたくさんあった」との感想も多く、生徒たちが地元の産業を再認識するよい機会となりました。



岡室会長による説明

4. 簿記研修会を開催（河西農業士会）

河西農業士会（会長：増田恵一郎氏）では、12月1日に中洲出荷組合会議室にて簿記研修会を開催し、会員5名が参加しました。昨年度は、座学にて農業簿記の基礎を研修し、今回は、実際に農業簿記ソフトでの入力体験を行いました。ソリマチ株式会社農業情報営業部の應治弘昭氏を講師に、各自、事前に「農業簿記12」の体験版をダウンロードしたパソコンを持参し、テキストを見ながら、具体的な数字を入力しました。今回の研修で、農業簿記12の基本操作やデータの活用の方法などを知ることができました。参加者からは、「こういったソフトの活用により、自身の経営を把握することで経営の改善に繋がると思う」との声がありました。今後も経営力の向上に繋がる研修等が必要と感じられる機会でした。



研修会の様子

農業士会支部活動レポート

REPORT

那賀地方における農業士活動

那賀地方農業士会事務局

1. 現地研修会の開催（岩出市農業士会）

地域農業のリーダーとしての活動や農業後継者の育成指導に取り組んでいる岩出市農業士会（令和4年度会長 神下勝好 会員15名）では、令和5年1月24日（火）に県暖地園芸センターにて研修会を開催しました。

暖地園芸センターでは、上山所長から県下9つある試験場の一つでその誕生した経緯、並びに近年のスマート農業への取り組みや辛くないシシトウなど、暖地園芸センターにおける研究の概要について説明いただきました。

また、ほ場見学は、播磨育種部長からエンドウやスターチスの品種試験やスマート農業技術実証ハウスなどを案内していただきました。

参加者からは「スマートハウスの建設費用はどれくらい必要か」とか「重油が高騰している中でどのくらいの最低温度で加温しているか」などの質問が出されました。



県農業試験場暖地園芸センターでの研修



試験ほ場の見学

2. 4年ぶりに開催された「紀の川市産業まつり」への参画（紀の川市農業士会）

令和5年11月26日（日）、紀の川市貴志川体育館及び貴志川生涯学習センター駐車場において紀の川市産業まつり実行委員会が主催する「紀の川市産業まつり」が4年ぶりに開催されました。

例年、紀の川市農業士会は産業まつりに参画してきましたが新型コロナウイルス感染症拡大があり、産業まつりは中止となっていました。今回4年ぶりの開催となり、役員らの運営者も慣れない中での参画となりました。

内容は、会員自らが生産した農産物やそれらを使った加工品の販売です。みかんやレモン、キウイといっ



会員の生産物や加工品を陳列販売

た果実から小松菜、季節の切り花、鉢物のシクラメンは大人気でした。加工品はジャムや柿せんべいと多彩な品揃えでお迎えました。

まつりの途中には会員が持ち込んでくれた大量のみかんの詰め放題企画を実施し、老若男女が入り乱れみかんに群がり大盛況となりました。

農産物販売をとおして紀の川市の農業を感じることができたかなと思います。



みかんの詰め放題は大好評

3. 環境に優しい農業研修会開催（那賀地方農業士会女性部会）

那賀地方の女性部会であるカトレア会では、令和5年12月5日（火）に「環境に優しい農業」を学ぶ研修会を開催しました。

講師は、会員からのたつての希望により、紀の川市で農薬を使わない野菜栽培を実現している「元ちゃんファーム」の小林 元さんにお願ひしました。

小林さんは地域外からの新規参入者です。農業を始める前にはパートナーと全国各地を周遊し、訪問先で社会の矛盾や対立を感じたそうです。その経験から、世の中で何が起こっても食べていけるのは、食べ物を自分で作れる人だということで農業を仕事に選びました。

1年間の有機栽培農家で研修の後、紀の川市でほ場を借りて営農を開始しました。最初の5年間は生産がままならず、今では講師本人も思い出したくないほどだそうです。営農14年目の現在は大儲けとはいかないものの安定した生活が送れる様にはなっています。

会員からは栽培管理技術の詳細についての質問がありましたが、最終的には自分達の思い（安全な農産物）と経済的な効果とのバランスをとることが課題であると思われました。



元ちゃんファーム小林講師と山田会長

農業士会支部活動レポート

REPORT

伊都地方農業士連絡協議会の活動

伊都地方農業士会連絡協議会事務局

1. 総会及び研修会の開催

令和5年4月11日、九度山町ふるさとセンター5階大ホールにおいて、伊都地方農業士連絡協議会主催の研修会を開催したところ、会員ら38名の出席がありました。開会にあたり、辻重光会長からは、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、農業士会の活動を控えていましたが、久しぶりに研修会を開催できて、非常にうれしいと挨拶を行いました。

研修会では、粉河税務署 法人第一部門 溝本達也総括官、及び布目健太氏から、「インボイス制度について」と題して講演をいただきました。令和5年10月1日から適格請求書等保存方式（インボイス）の制度が開始されるため、出席した農業士らは今後の経営に直結した講演を熱心に聞き入り、その後の質疑応答では内税と外税の違いによる対処方法やインボイス発行事業者を解除する場合についてなど、様々な質問と意見交換が行われました。

研修会終了後、令和5年度伊都地方農業士連絡協議会の総会を開催し、開会にあたり、辻重光会長から挨拶を行い、続いて来賓の岡本章九度山町長、紀北川上農業協同組合 村田昌隆代表理事専務、伊都振興局 澤井克文農林水産振興部長から祝辞をいただきました。続いて退任された農業士及び新規認定者の紹介を行いました。総会では円滑に議事が進行し、役員改選を含めて全ての議案が承認されました。



インボイス制度研修会



社会長から総会の開会挨拶



新旧役員

最後に新旧役員を代表し、再任された 辻 重光 会長から、これまでの皆様へのお礼と今後の会活動への抱負を述べ、総会を終了しました。

2. 紀州てまり栽培研修会の開催

令和5年8月30日、橋本市の紀州てまり栽培ほ場において、農業士を対象とした栽培研修会を開催しました。

研修会では、森口普及指導員から、実証ほ場における本年の生育データや灰色カビ病調査結果、気象状況、栽培技術について、園主の小松 英雄氏から、実際の栽培上の特性などについて説明があり、会員らは紀州てまりの栽培で活用できる貴重な情報に聞き入り、熱心に意見交換を行っていました。



紀州てまり研修会

3. 柿の病害虫対策研修会の開催

令和6年1月23日、伊都振興局3階大会議室において、伊都地方農業士連絡協議会主催の柿の病害虫対策研修会を開催したところ、会員ら21名の出席がありました。

開催にあたり、井上靖雄副会長からは、昨年は柿の炭そ病をはじめとして、様々な病害虫が発生したので、本日の研修会を経営に役立てて欲しいと挨拶を行いました。

研修会の講師には、果樹試験場 かき・もも研究所 大谷洋子主任研究員を招き、「柿の病害虫対策について」と題して講演をいただきました。講演では、多くの画像を用いて説明があり、会員らは現場で活用できる貴重な情報に熱心に聞き入っていました。

講演後の質疑応答では、薬剤の防除効果や防除のタイミングなど様々な質問が出され、講師からはそれぞれの質問に対し、丁寧に回答をいただきました。



井上副会長から開会の挨拶



柿の病害虫対策研修会

農業士会支部活動レポート

REPORT

令和5年度有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（会長：武内啓和）では、生産技術の向上と農業経営の発展等を目指し、講演会や研修会を開催しています。

1. 有田地方農業士協議会総会と併せた研修会

令和5年4月14日、有田振興局で開催した有田地方農業士協議会総会時に、県里地・里山振興室から講師を迎え「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム 世界農業遺産認定に向けた取り組み」について研修会を開催し、農業士37名が出席しました。



内容はみかんシステムの特徴や世界農業遺産認定へ向けた今後のスケジュールについてであり、本研修が先人から続くみかん栽培の歴史や取組を再認識し、当地域の農業をより誇りに思ってもらえる機会になったと思います。

2. 有田地方4Hクラブ連絡協議会との合同現地研修会

令和5年8月30日、令和5年度有田地方農業士協議会・有田地方4Hクラブ連絡協議会（会長：辻本真希）主催の合同研修会を広川町内において開催しました。毎年、各市町農業士会・4Hクラブの持ち回りで実施しており、人数制限無しの開催は令和元年以来4年ぶりで、43名（農業士34名、4Hクラブ員9名）が参加しました。

研修先は4箇所、AQマル南選果場では光センサー選果機と業務概要、池田農園株式会社では令和4年に導入した光センサー選果機や保冷库、西谷農園ではいちじく栽培やいちじくで取り組み始めた6次産業化について説明を受けました。また、稲むらの火の館では防災について学習しました。

選果機の処理能力、冷蔵庫の稼働状況、いちじく苗の仕立て方など多くの質問があり、地元の施設や生産者の取組を知る良い機会となりました。

AQマル南選果場

3つあるJAありだ直営選果場の1つ
12条の光センサーを完備



池田農園株式会社

令和元年に法人化
温州みかんを中心に生産・販売、
仕入販売
令和4年度に光センサー選果機、
大型保冷库（写真）を整備

西谷農園

温州みかんと組み合わせて、いちじくを
栽培
いちじくのジャムやドライフルーツなど
の自社加工・ネット販売も開始



農業士会支部活動レポート

REPORT

日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

1. 地域リーダー研修会の開催

11月24日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫）では、会員の資質向上と相互の親睦を図るため、先進地研修を実施し17名が参加しました。今年度は、JAならけんが経営する「まほろばキッチン榎原店」と「タキイ種苗研究農場」で研修を行いました。

「まほろばキッチン榎原店」は、全国最大級の売り場面積を有する農産物直売所を中心に産直レストラン、フードコート等で構成されています。会員は農産物直売所を見学した後、産直レストランで昼食をとりました。

また「タキイ種苗研究農場」では、研究農場の取り組みや育種の方向性など説明を受けた後、約70haにも及ぶ栽培ほ場で野菜を見ながら品種特性などを学びました。会員からは、現在の育種が機能性や耐病性が重視されていることなどが解った、等の感想が聞かれました。



タキイ種苗研究農場

2. 花育活動を実施

5月19日、日高地方農業士会と日高地方花き連合会（会長：假家誠）は共催で花育活動を実施しました。全国有数の花き産地である当地方の花の生産について、小学生に知って欲しいと毎年実施しているもので、今回で15回目となります。

日高管内の花き生産者から提供されたスターチスや宿根カスミソウ、ガーベラなどを使って花束を作成し、小学校30校の5、6年生（83クラス、1,153名）



ミニ花束づくり体験

に届けました。また、贈呈식을8校行い、うち5校でミニ花束づくり体験を実施しました。

贈呈式が行われた日高川町立和佐小学校では、農業士の片山氏と花き連合会の中尾氏が児童代表に手渡ししました。その後、ミニ花束づくり体験を行い児童らは「可愛い花束ができました。」などと笑顔で話していました。



きれいにできたよ！！

3. 由良町農業士会夏季研修会を開催

8月23日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）では、農業士各々の研さんと親睦を図るため夏季研修会を開催し、8名の参加がありました。

今回は、日高川町と御坊市の柑橘園でゆら早生の現地研修、また暖地園芸センターで野菜の新技术や品種特性について研修を行いました。

ゆら早生の現地ほ場は、令和4年度「匠の技 伝道師」に認定された塚本氏等の園地を見学しました。参加者からは「樹勢がよく、着果量も多い」、「樹の大きさが自分の園とは違う」等の声が聞かれました。

暖地園芸センターでは、センターの沿革と試験内容について説明を受けた後、試験ほ場に移動して現在行っている試験の状況を見学しました。参加者の中にはミニトマトを栽培している農業士もあり、熱心に話を聞いていました。



ゆら早生ほ場



暖地園芸センター

農業士会支部活動レポート

REPORT

会員の研鑽と交流を深める活動の実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 西牟婁地方農業士会連絡協議会総会・研修会の開催

4月18日、当協議会（会長：谷本喜久）は、県情報交流センタービッグ・ユーにおいて、会員及び行政関係者等約50名が出席のもと、総会並びに研修会を開催した。

総会では、令和4年度事業報告、収支決算報告及び令和5年度事業計画（案）、収支予算（案）ともに原案のとおり承認され、役員改選により家高 勇氏が会長に就任し、新体制でスタートした。

研修会は、3月末に定年となった指導農業士の中道昭人さんから、梅干しの加工販売に取り組んできた自身の農業経営の紹介を交えた退任の挨拶、日本政策金融公庫和歌山支店の秋元課長代理から各種公庫資金の紹介、果樹試験場栽培部の中谷主任研究員から極早生みかん「YN26」の日焼け果発生状況と対策、カンキツ新品種「あすみ」、「あすき」の特性についての講演があった。

「先駆的に梅の6次産業化に取り組んで苦労した点を知りたい」や「温州みかんに炭酸カルシウム剤を2回散布しても樹勢低下は見られないか」、「新品種は収穫時期が遅いので、寒さ対策はどうしているのか」等に関する活発な質疑応答がなされた。



会長挨拶



研修会（講師：果樹試験場）

2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が梅の消費拡大活動を実施

当協議会女性部会（武森直子部会長）は、今年度も都市部において梅の消費拡大活動を実施した。

7月25日、大阪府藤井寺市にある四天王寺小学校2年生の児童50名と教員4名を対象に、「梅の一年」について、梅畑や農作業の様子についてスライドで説明した後、梅シロップの作り方を実演しながら説明し、児童も冷凍梅と氷砂糖を使って梅シロップづくりを体験した。また、持参した梅シロップを実際に水で割り、梅ジュースを試飲するとともに、梅料理のレシピを紹介し、個包装の梅干しの配布を行った。

9月23日、大阪市の阪神百貨店梅田本店において、「梅シロップづくり体験」の希望者（先着60名）を対象に、冷凍梅を用いた梅シロップづくりの指導の他、梅ラッシー（牛乳割り）や梅ジュースの試飲も行った。また、一般客約300名に対し、梅料理レシピの配布や説明、梅に関するアンケートの実施と個包装の梅干しの配布を行った。

大阪においても梅の味を好む方が多いことが分かり、冷凍梅を用いることでいつでも梅シロップができることや手軽に料理に取り入れてもらうきっかけを作ることができた。



梅シロップづくり体験



梅料理レシピの紹介

3. 西牟婁地方農業士会連絡協議会現地研修会の開催

1月19日、みなべ町において現地研修会を開催し、会員11名が出席した。

はじめに、南部高等学校でスマート農業技術の1つとして導入した自動草刈機に関する研修を行った。あらかじめ専用のワイヤーで囲んだエリア内の草を刈り、自分で充電ステーションまで戻って電力を補って再び草を刈るというもので、昼夜を問わず作業ができるため、農場担当の教諭によると導入して1年近く経過するが、10aの梅園の雑草は十分処理できており、導入が進んでいる東北地方では、夜間に作業をすることにより獣害が減少したという意見もあるとのことだった。

次に、株式会社うめひかり（梅ボーイズ）で梅の加工販売に関する研修を行った。代表の山本将志郎氏は、一昨年の9月に田辺市で開催した経営研修会で講演いただいております、新たな取組として、自社農園の拡大とそれに伴う労働力の確保、加工場の増設のほか、地域の耕作放棄地に植栽するウバメガシの苗づくりも実施している。

参加者からは「自動草刈機を導入できる平坦に近い園地は少ないが、無人で終日草刈りをしてくれるのは魅力的」、「農園管理の労働力は移住者が中心で、自らが収支計画の作成やSNSによる商品の情報発信に取り組んでおり、そのことが定着につながる秘訣と感じた」等の意見があった。



南部高等学校農場



(株)うめひかり（梅ボーイズ）

農業士会支部活動レポート

REPORT

東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会事務局

1. 農産物即売会を開催

11月25日、東牟婁地方農業士会（会長：杉浦 仁氏）と東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（会長：安田 裕志氏）は、那智勝浦町文化体育会館で行われた第45回那智勝浦町農産物品評会の開催に合わせて、即売会を開催しました。

品評会では、那智勝浦町の農業士をはじめ多くの農業者から農産物127点が出展されました。

天候にも恵まれ、会場のテントには多くの人たちが訪れ、ダイコン、ホウレンソウ、ショウガ、サツマイモ、ほうじ茶など会員が生産した新鮮な農産物や加工品の売れ行きは好評でした。



農産物即売会



農産物品評会

2. 先進地研修会を開催

1月11日、鳥獣害対策や耕作放棄地解消に向けた地域の活性化事業やIターン就農の事例を学ぶことを目的に、田辺市の株式会社日向屋と白浜町のわかやましらはま農家を訪問。会員3名が出席しました。

株式会社日向屋では、岡本和宜代表取締役から、若手農家らで平成28年に狩猟チームを結成したことを機に、平成30年に会社を設立し、地域内のジビエ解体処理施設やジビエ料理店との連携で処理・加工・調理・販売の体制を構築。その他、耕作放棄地を梅園に再生する取組や梅剪定作業の請負、就農希望者の研修受入などの取組について話を伺いました。

わかやましらはま農家では、遠藤賢嗣氏から、Iターン就農の経過や経営概要、就労継続支援B型事業所との農福連携、農業体験受入などの取組について話を伺いました。

当会では、これらの先進事例からそれぞれの経営に活かすと共に地域農業の活性化に繋げていければと考えています。



株式会社 日向屋



わかやましらはま農家

地域の逸品 !!

あまーく、とろける 「ふわとろ長なす」 売り出し中

紹介者

岩出市 地域農業士

大西 貴 富

1. 商品の紹介

当地域は紀ノ川流域で豊富な農業用水を活かして水なすの栽培が古くから行われてきました。そんな中、「ふわとろ長」という品種に出会い、是非、この品種を産地化し、JA紀の里を代表する特産品に育てたいと頑張っています。

長さは30cm前後、1つの果実重は300g前後の長大なナス。見た目は一見収穫遅れのナスのようですが、一度試食いただければ、その“ふわっ”“とろっ”とした食感のおいしさをわかってもらえるはず。これを使った麻婆茄子は絶品！品質は折り紙付きでプレミアム和歌山にも認定いただいています。

露地栽培のみなので販売は7月頃から10月下旬まで、関西の市場の他、地産地消のPRのため各地の直売所でも販売されています。



2. お問い合わせ先等

JA紀の里

ファーマーズマーケット「めっけもん」

紀の川市豊田 56-3

TEL/FAX : 0736-78-3715/0736-78-3716

営業時間 : 9:00 から 17:00



地域の逸品 !!

甘みと酸味のバランスが抜群のスモモ「貴陽」

紹介者

有田川町 地域農業士

林 宏 樹

温暖な気候の有田川町では、温州みかんをはじめとした柑橘類の栽培が盛んですが、柑橘類の裏作として、スモモやウメ、ブドウなど、様々な落葉果樹が栽培されています。今回は、有田川町吉原地区で生産しているスモモ「貴陽」を紹介します。

1. 商品の紹介

「貴陽」の果実は300gにもなる大玉で、糖度は20度を超えます。また、適度な酸味を有しており、そのバランスは抜群で食味はこれまでのスモモにない素晴らしさがあります。

これまで、「太陽」や「サンタローザ」などのスモモを栽培してきましたが、価格の低迷などから15年ほど前に「貴陽」を期待の品種として導入しました。しかし、結実が安定しないなど栽培が難しい面もあり、県外の生産者や市場関係者らと情報交換をする中で、人工受粉の重要性に気づかされました。現在は他品種の花粉を自家採取し、開花期に4～5回程度受粉を行っています。また、枝や棚線との擦れにより果実が傷つきやすいため、緩衝材を設置し防いでいます。

「貴陽」の食べ頃は7月中旬です。食べる前に冷蔵庫で冷やすのがおすすめです。食べ方は、まず、縫合線（果実表面の縦に伸びる線）に沿ってナイフを1周入れます。両手でやさしくねじるとパカッと割れます。好みのサイズに切り分けて召し上がりください。

最近では、県内の飲食店などでジャムやケーキなどにも利用されています。

2. お問い合わせ先等

林農園 林 宏樹

〒643-0166 和歌山県有田郡有田川町吉原 878

TEL,FAX : 0737-32-2283

購入できる場所：林農園、どんどん広場



収穫期の「貴陽」



化粧箱での販売



おいしい食べ方

地域の逸品 !!

梅の種を使ったスイーツ 「梅仁豆腐」

紹介者

田辺市 指導農業士

武 森 直 子

田辺市（旧田辺市）の山間部に位置する上芳養に、令和2年3月オープンしたフランス料理店「キャラバンサライ」の店主である更井亮介氏は、長野県の料理店で関わったジビエの魅力に惹かれ、実家の梅蔵を改装した店舗で、ジビエなど地域食材を使った料理を提供するほか、小中学校を中心に調理実習を交えた食育活動にも積極的に取り組んでいます。



みんなの梅仁豆腐 365

1. 商品の紹介

更井さんが数年前に参加した料理会で、杏（あんず）の仁の代わりに梅の仁を使ったデザートに出会い、梅産地に生活していて加工の過程で捨てられている梅の種を活用しない手はないと、「杏仁（あんにん）豆腐」ならぬ「梅仁（うめにん）豆腐」を開発しました。

梅仁には多量に摂取すると中毒症状を起こすシアン化合物が含まれているため、その除去が商品開発に向けて一番の難点だったようですが、大学の薬学部などの協力を得て安全なレベルまで減らすことに成功し、1瓶（90g入り）に仁を4粒使用しています。

昨年9月の販売開始時は、梅の味も楽しめるよう南高梅のソースをかけたもので、季節によってソースが変わっていきます。

なお、種は梅加工会社から仕入れ、仁を取り出す工程は就労支援活動をしている地元のNPOに依頼し、取り出した後の殻は肥料として梅畑に返すなど、地域での循環も実現しています。

商品（みんなの梅仁豆腐 365）は、田辺市稲成町の産直市場「よってって」いなり本館で販売していますので、是非お買い求めください！



梅蔵を改装したレストラン

2. お問い合わせ先等

Restaurant Caravansarai（レストラン キャラバンサライ）

田辺市上芳養595（電話）0739-33-9990



地域の逸品 !!

古座川「後口農園」の手作りぽんず ゆずぽんず

紹介者

古座川町 地域農業士

山本拓自

古座川町では、気候風土が適していることから良質な柚子が生産され、多様な加工品の販売も行われるなど町の特産品となっています。今回、紹介します古座川町楠にある「後口農園」は、種から発芽させ、苗木を作り育てる、実生（みしょう）の柚子を父親の代から40年あまり栽培されています。

1. 商品の紹介

後口農園の商品は、栽培から加工まですべて当農園が一貫して行っています。

取り扱う商品は、ゆず酢とぽん酢です。実生のゆず加工品は、香りが良く、料理人の間でも好評です。

一番の人気は、「手作りぽんず ゆずぽんず」です。実生の柚子を絞っただけの100%天然果汁は、普通のぽん酢よりも香りが良く、優しい味になっています。

後口農園のゆず加工品は、電話、FAXによるお問い合わせのほか、道の駅虫食岩などでご購入いただけます。



手作りぽんず ゆずぽんず

2. お問い合わせ先等

後口農園

〒649-4102

和歌山県東牟婁郡古座川町楠 453-2

TEL・FAX 0735-72-1598

<https://www.ushiroguchi-farm.com/>



収穫された柚子

県からのお知らせ

農業士認定事業について

県農林水産業のリーダーを認定

和歌山県農林水産部経営支援課

2月13日、農林漁業各分野で長年にわたり活躍された方々の功績に敬意を表して知事感謝状を贈呈しました。また、同日付けで、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々を、農業士、林業士、漁業士として認定しました。今回の認定により、県内の農業士は758名となりました。今回、感謝状を受け取られた皆様、農業士の認定を受けられた皆様は次のとおりです（敬称略）。

感謝状を受けられた皆様 29名

氏名	市町村
岩本 治	海南市
藤坂 奉子	海南市
保田 尚徳	紀の川市
西口 靖	紀の川市
吉田 佳代	紀の川市
田村 八江子	紀の川市
妹背 克紀	紀の川市
長谷川 美枝	紀の川市
小坂 博子	紀の川市
森口 佳幸	橋本市
西垣 俊秀	かつらぎ町
狭間 富男	九度山町
上野山 良知	有田市
鳴川 耕平	有田市
森 康眞	湯浅町
平畑 信文	有田川町
森田 耕司	有田川町
岡 雅幸	御坊市
津村 文雄	日高町
畑 万知子	日高町

氏名	市町村
村上 智一	印南町
岩崎 幸生	印南町
松川 哲朗	みなべ町
二葉 美智子	みなべ町
龍田 雅人	日高川町
瀬戸 佐知子	日高川町
中村 佳美	日高川町
谷口 文治	田辺市
芝峰 理恵子	田辺市



感謝状贈呈式 (R6.2.13)

県からのお知らせ

農業士認定者の皆様 52名

氏名	市町村
上森 培弘	海南市
鷺岡 末穂	紀美野町
木下 善久	橋本市
下垣内 泰貴	かつらぎ町
井上 靖雄	九度山町
上野山 和広	有田市
久世 佳典	有田市
川口 記生	有田川町

氏名	市町村
杉本 真治	有田川町
田邊 聡	有田川町
山崎 さおり	みなべ町
武森 直子	田辺市
向日 雅和	田辺市
太田 美保	那智勝浦町
杉浦 仁	那智勝浦町

地域農業士認定者 34名

氏名	市町村
辻本 晃啓	和歌山市
戸口 陽介	和歌山市
中道 裕一	海南市
小川 真弓	紀の川市
木村 佳世子	紀の川市
辻本 笑	紀の川市
平野 安紀	紀の川市
吉田 昌司	紀の川市
山名 和之	橋本市
山本 雅洋	橋本市
伊藤 貴啓	有田市
上野山 純平	有田市
上野山 義人	有田市
山崎 行晃	湯浅町
浦 将也	広川町
崎山 慎一	広川町
吉田 貴洋	有田川町

氏名	市町村
井本 正勝	御坊市
假家 達矢	御坊市
中田 賀友	御坊市
前田 昌紀	御坊市
上田 明広	日高町
白井 雄太	日高町
数見 かおり	由良町
杉谷 朋美	由良町
木下 宗久	印南町
長井 利憲	印南町
鈴木 惣志郎	田辺市
寄本 裕貴	田辺市
鴨居 秀和	白浜町
前地 孝俊	上富田町
前田 純志	上富田町
山本 哲也	上富田町
榎野 稔近	那智勝浦町

青年農業士認定者 3名

氏名	市町村
西崎 誠	御坊市
溝口 敏幸	日高町

氏名	市町村
谷本 淳史	上富田町

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(65歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

令和6年2月末現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	119名	(うち女性 18名)
地域農業士	547名	(うち女性 54名)
青年農業士	92名	
合計	758名	(うち女性 72名)



表紙の人

海南市 指導農業士

岩本 治さん

岩本さんはミカン170aと中晩柑類30aを減農薬、有機肥料施用の栽培を
実践し、特別栽培農産物の認証を受けています

また、地元小学校での体験学習や出前授業などを通じて、ミカンづくり
の伝承にも取り組んでいます。

和歌山の農業士 第22号

発行日：令和6年3月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：株式会社 協和



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

